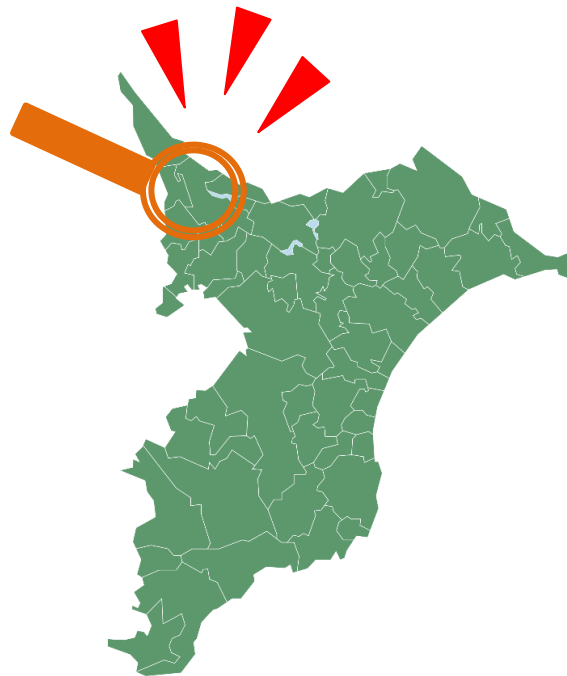


2023・4

柏の景気情報

令和5（2023）年4月の調査結果



柏商工会議所

The kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課

〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18

TEL : 04-7162-3305

FAX : 04-7162-3323

URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>

E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報 (令和5年4月の調査結果のポイント)

★調査結果のまとめ

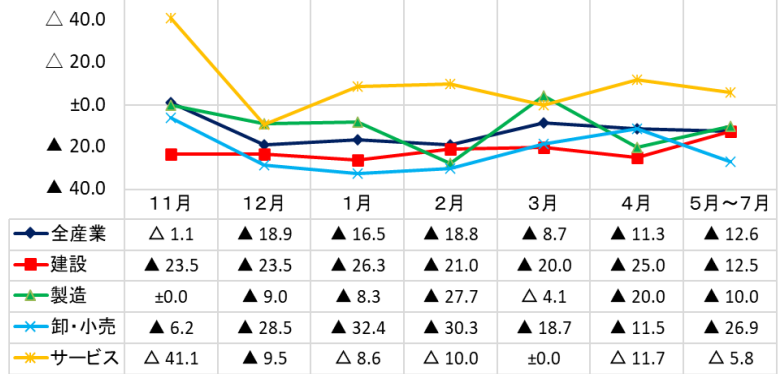
回答期間:令和5年4月25日～令和5年5月8日 調査対象: 柏市内141事業所及び組合にヒアリング、回答数83

価格高騰や賃上げの影響強く全産業DIは悪化。サービス業は改善し、GW明けコロナ5類移行による期待の声が高まる

4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲11.3(前月水準▲8.7)となり、マイナス幅が2.6ポイント拡大した。

DI値が改善したサービス業からは、コロナ前に近い売上に戻ってきた等のコメントが少しずつ増加してきた。一方、サービス、卸小売業を除く全業種では、DI値が悪化した。建設業では、人手不足や材料高騰、設備の納期遅れにより受注が減少した。製造業では、円安やウクライナ情勢による国外の影響が大きく懸念材料となる。全業種に共通して、原材料、電気代、人件費等の価格高騰への苦慮が目立つ。コロナが5類移行へなることはプラス材料であると改善コメントも寄せられた。

柏の景気情報・産業別業況DI



★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



建設業

「窓断熱リフォーム補助金への問い合わせが好調だが、納期が3～4ヵ月待ちと日に日に延びている」(一般土木建築工事)、「生コンプラントがいっぱいで押さえられず工期が遅れている。職人不足が継続」(一般土木建築工事)、「だんだん畳工事の受注が増加」(畳)、「脱コロナによって、一気に流れが来ている。現場の引き合いは多数あるが、現場管理者が足りず秋まで待ってもらっている。材料費の高騰は今後も続くため、早めに工事をしようとしている」(塗装工事)、「アパート・マンション工事等の原材料高騰により、受注が減るのではないかと」(土木建築サービス)



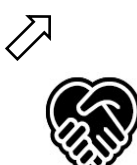
製造業

「得意先で廃業や事業縮小する会社が出てきた。少子高齢化による国内需要の低迷、後継者・人手不足が根深い」(化学工業)、「円安で推移しているために海外からの購入品が非常に高額となっている」(機械・同部品)、「コロナも終息に向かい、世の中が通常に戻りつつあることによって酒類の売上も好転。原材料や光熱費、人件費の上昇等による製品の値上げが予定されており、仮需要等が見込まれる」(酒類)、「GW明けのコロナ5類への移行に伴い、社内のコロナ対応は原則廃止、アルコール消毒は継続」(鉄鋼)



卸・小売業

「コロナ5類移行に向けて、移動マーケットは伸長、インバウンドの免税対応も徐々に動き始めている。電気代高騰が重く、経費を圧迫」(大型小売店)、「原材料の値上げにより商品価格を値上げ」(洋菓子店)、「新生活関連の衣料品が2ケタ伸長。一方、値上げが影響し食関連は鈍化傾向」(百貨店)、「求人のため一律賃上げ。人件費高騰も価格転嫁検討中」(各種商品小売)、「ディーゼル車の出荷停止が大きく響く。海外の金利上昇に伴い、輸出に直結し痛い」(産業機械器具卸売)、「デフレ経済が昨年ロシアのウクライナ侵攻を機に終焉し、インフレ経済へ突入。賃金の低いところから、高いところへの移動は昨年からは始まっており、それは今後も続くと思われる」(自動車卸売)



サービス業

「テナントがコロナ禍で空いた好条件の場所に移っている。コロナ明けの不動産業界もオンライン重説含め活性化」(不動産賃貸)、「収益物件修繕のため、ローンを利用したが金利は従前より上昇」(不動産賃貸・管理)、「年明けからの新規入会の動きは悪いが、新年度になり入会者が増加し、授業料収入もコロナ前の水準にまで回復。今後はいろいろとキャンペーンを考えていく」(学習塾)、「前年より売上増加、コロナ前と比較し平日夜の客数が戻らず課題」(日本料理)、「再生可能エネルギー開発、特に地熱開発務が増加、脱炭素に関わる調査も実施予定。SDGsに関わる業務が増加」(土木建築サービス)、「物価上昇、エネルギー価格高騰により利益減少。増税や社会保険料の引き上げが個人消費に悪影響となるため、梅雨以降が心配」(ゴルフ練習場)、「排ガス処理設備の集塵機関係は設備更新時期もあり景況感は横ばいかやや右肩上がり安定」(技術サービス)

★全国の商工会議所早期景気観測調査(CCI-LOBO)との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲11.3に対し、「CCI-LOBO」が▲11.1で、柏の方がマイナス幅が0.2ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、卸小売業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業である。

今月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI
業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 11.3	 ▲ 25.0	 ▲ 20.0	 ▲ 11.5	 11.7
CCI-LOBO	 ▲ 11.1	 ▲ 23.1	 ▲ 13.9	 ▲ 15.9	 5.6
売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 8.8	 ▲ 12.5	 ▲ 20.0	 30.7	 29.4
CCI-LOBO	 6.3	 ▲ 13.8	 8.4	 2.2	 21.5
採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 13.9	 ▲ 31.2	 ▲ 20.0	 ▲ 19.2	 17.6
CCI-LOBO	 ▲ 16.0	 ▲ 25.8	 ▲ 21.2	 ▲ 18.8	 ▲ 1.4
仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 75.9	 ▲ 68.7	 ▲ 90.0	 ▲ 80.7	 ▲ 58.8
CCI-LOBO	 ▲ 74.4	 ▲ 83.1	 ▲ 76.5	 ▲ 77.6	 ▲ 68.7
従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 25.3	 31.2	 25.0	 26.9	 17.6
CCI-LOBO	 22.2	 28.0	 14.9	 15.7	 34.1
資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 13.9	 ▲ 18.7	 ▲ 25.0	 ▲ 15.3	 5.8
CCI-LOBO	 ▲ 12.9	 ▲ 10.5	 ▲ 11.8	 ▲ 19.0	 ▲ 11.8

CC I - L O B O

商工会議所早期景気観測(4月速報)

調査期間：2023年4月13日～19日

調査対象：全国の329商工会議所が2,495企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、経済活動の回復により、全業種で改善。先行きは、コスト増や人手不足等で慎重な見方

4月の全産業合計の業況DIは、▲11.1と、前月から+3.7ポイントの改善。サービス業では、客足が回復基調な飲食・宿泊業を中心に改善した。小売業では、インバウンドの増加で売上が好調な百貨店に下支えされ、改善した。また、製造業では、サービス業等の非製造業での設備投資需要の回復で改善し、卸売業でも、製造業からの引き合い増や、客足が回復する小売業や飲食・宿泊業からの受注増で改善した。建設業でも、政府の補正予算による公共工事の受注増で改善した。原材料・エネルギー価格の高騰や人材確保に向けた賃上げ等のコスト負担増、度重なる仕入価格の高騰に価格転嫁も十分に行えていない等、経営課題は山積も、経済活動の回復が続く、業況は2021年12月ぶりに全業種で改善した。

先行きについては、先行き見通しDIが▲12.9（今月比▲1.8ポイント）と悪化を見込む。5月8日のコロナの5類移行に伴い、経済活動のさらなる回復による売上改善を期待する声の小売業・サービス業を中心に多く聞かれた。一方、原材料価格の高止まりやエネルギー価格の高騰継続によるコスト負担増や、人手不足による受注機会の損失が懸念される。また、コスト増に見合う価格転嫁も十分に追いついていない中、海外経済の鈍化など、先行きへの不安は根強く、慎重な見方となっている。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

業種別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、すべての業種で改善した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「政府の補正予算により、公共工事の発注数が増加している。一方で、技術者の人手不足により、工事の進捗遅れや受注を取りやめるケースも発生している。資材価格やエネルギー価格の高騰等で採算も悪化しているが、人材確保に向け、採用や賃上げに取り組んでいく」（一般工事業）、「現場ごとに契約しており、価格転嫁はある程度できているが、長工期の案件は工事中に材料が値上がりすることもあり、収益を圧迫している」（管工事業）

【卸売業】「いままで自粛傾向にあった大型のイベントや対面での販売事業が復活している。輸送費や梱包資材などのコスト負担の増加により、収益は圧迫されているが、継続的に受注が行えているため、さらなる販路獲得に向けて取り組んでいく」（食料・飲料卸売業）、「コロナの感染が落ち着いているため、設備投資を行う企業が増加しており、関連する仕事の引き合いが増加している」（一般機械器具卸売業）

【製造業】「インバウンド需要の増加や人流の回復に伴い、顧客先である外食産業からの発注数が増加している。原材料価格の高騰分に関する値上げは受け入れられているが、電気代等も高騰しているため、全体のコスト増に見合う価格改定が行えるような商品づくりを行っている」（パン・菓子製造業）、「経済活動が戻りつつある中で、顧客の設備投資が予定通り動き始めている。需要に対応するべく人材確保が急務な状態である」（一般産業用機械製造業）

【小売業】「マスク着用ルールの緩和等でコロナに対する消費者の意識も変化しており、来店数は増加してきている。売上に繋がるよう、販促を図っていく。一方で、電気代等のコスト負担増が著しく、収益の改善が課題である」（百貨店）、「経済活動が回復し、需要が増加したことで、材料や人手の確保に難航しており、対応が追いつかない状況になっている」（楽器小売業）

【サービス業】「コロナに対する消費者の意識変化で、大人数での歓送迎会が増加。依然として食材の仕入単価の上昇や

電気代の高騰が続いているため、販売価格も値上げせざるを得ないが、新メニューの開発等で販路拡大を図り、顧客を獲得していく」（飲食店）、「インバウンド需要の増加に加え、バスツアー等の国内旅行も戻ってきており、前年を大きく上回る宿泊数で売上も増加した」（宿泊業）

全国・産業別業況DIの推移

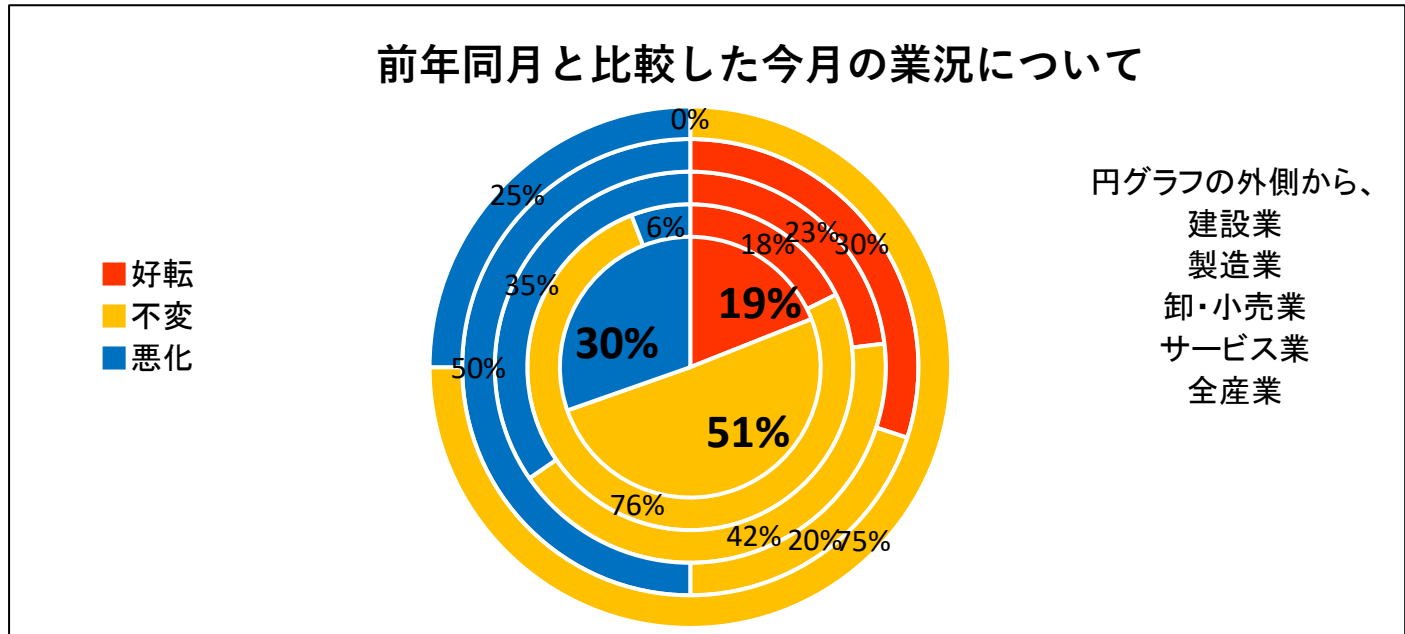
「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
11月	▲16.4	▲22.9	▲16.2	▲20.3	▲23.9	▲4.5
12月	▲18.4	▲27.2	▲14.2	▲16.3	▲32.1	▲7.0
1月	▲18.4	▲25.1	▲16.9	▲17.3	▲27.1	▲8.8
2月	▲19.4	▲31.9	▲18.4	▲16.4	▲25.9	▲8.6
3月	▲14.8	▲24.5	▲18.9	▲22.4	▲19.5	△2.8
4月	▲11.1	▲23.1	▲13.9	▲15.0	▲15.9	△5.6
見通し	▲12.9	▲19.1	▲14.1	▲17.1	▲21.7	△1.6

令和5年（2023年）4月の動向

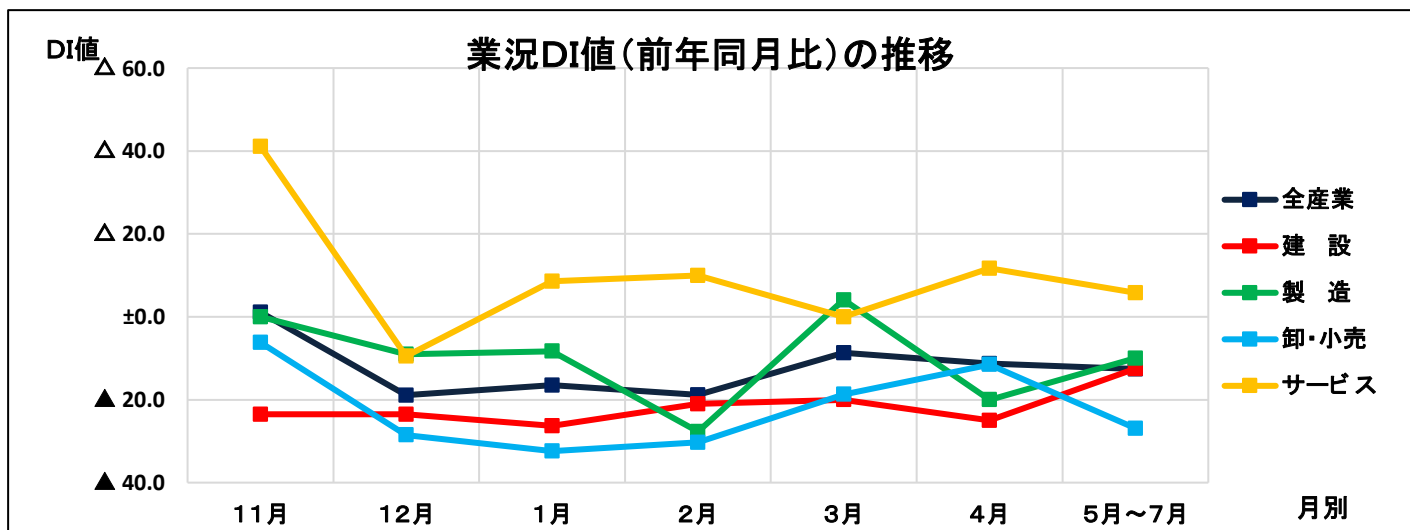
【業況について】

- 4月の全産業合計のDI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲11.3（前月水準▲8.7）となり、マイナス幅が2.6ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月（5月から7月）の先行き見通しについては、全産業では、▲12.6（前月水準▲16.5）となり、マイナス幅が3.9ポイント縮小する見通しである。



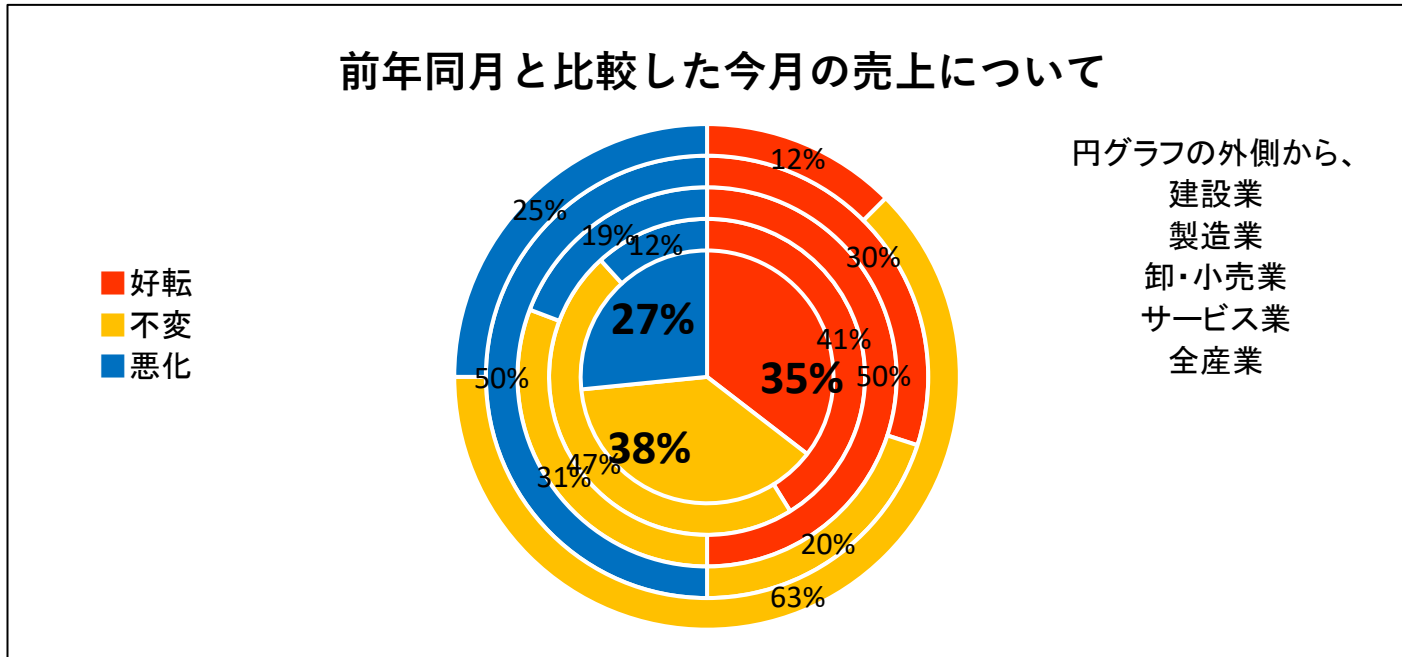
業況DI値（前年同月比）の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和4年		令和5年				先行き見通し
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月～7月（4月～6月）
全産業	△11.1	▲18.9	▲16.5	▲18.8	▲8.7	▲11.3	▲12.6（▲16.5）
建設	▲23.5	▲23.5	▲26.3	▲21.0	▲20.0	▲25.0	▲12.5（▲20.0）
製造	±0.0	▲9.0	▲8.3	▲27.7	△4.1	▲20.0	▲10.0（▲16.6）
卸・小売	▲6.2	▲28.5	▲32.4	▲30.3	▲18.7	▲11.5	▲26.9（▲34.3）
サービス	△41.1	▲9.5	△8.6	△10.0	±0.0	△11.7	△5.8（△7.4）



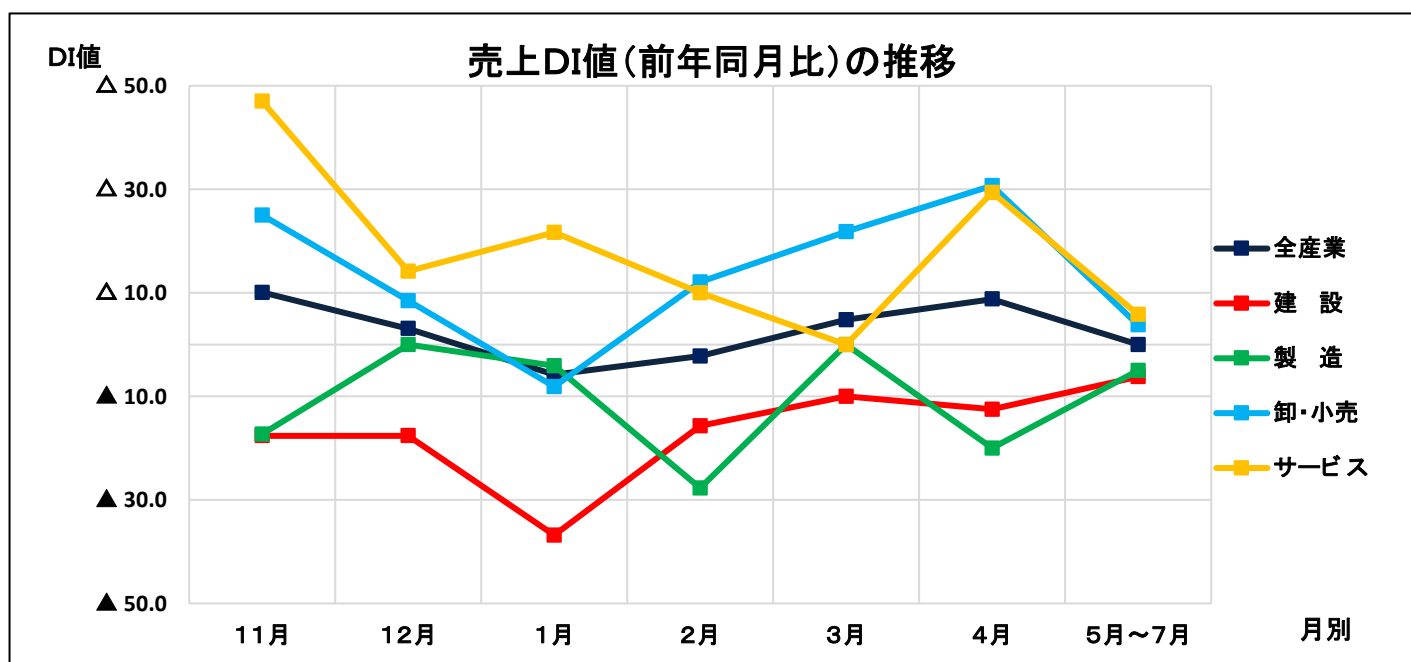
【売上について】

- 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△8.8(前月水準△4.8)となり、プラス幅が4.0ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、±0.0(前月水準±0.0)となり、変わらなかった。



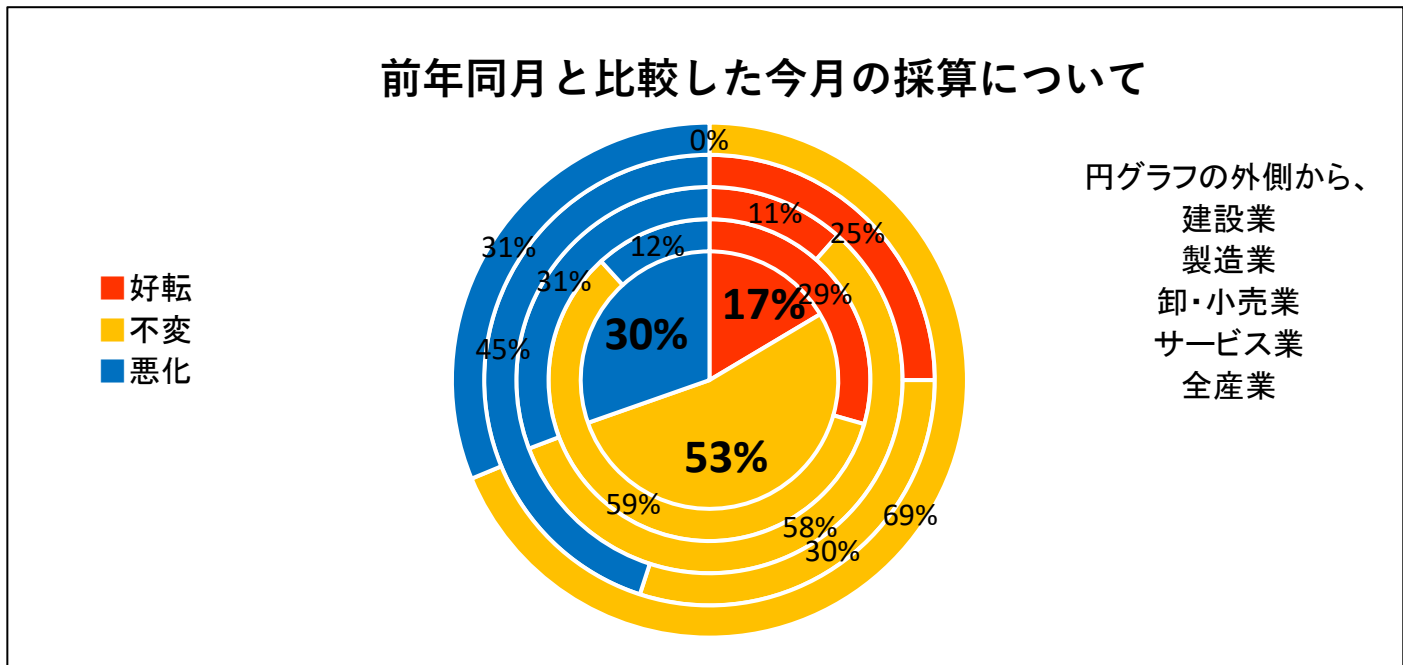
売上DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「増加」の回答割合-「減少」の回答割合

	令和4年		令和5年				先行き見通し
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月~7月(4月~6月)
全産業	△10.1	△3.1	▲5.8	▲2.2	△4.8	△8.8	±0.0(±0.0)
建設	▲17.6	▲17.6	▲36.8	▲15.7	▲10.0	▲12.5	▲6.2(▲15.0)
製造	▲17.3	±0.0	▲4.1	▲27.7	±0.0	▲20.0	▲5.0(▲8.3)
卸・小売	△25.0	△8.5	▲8.1	△12.1	△21.8	△30.7	△3.8(▲9.3)
サービス	△47.0	△14.2	△21.7	△10.0	±0.0	△29.4	△5.8(△29.6)



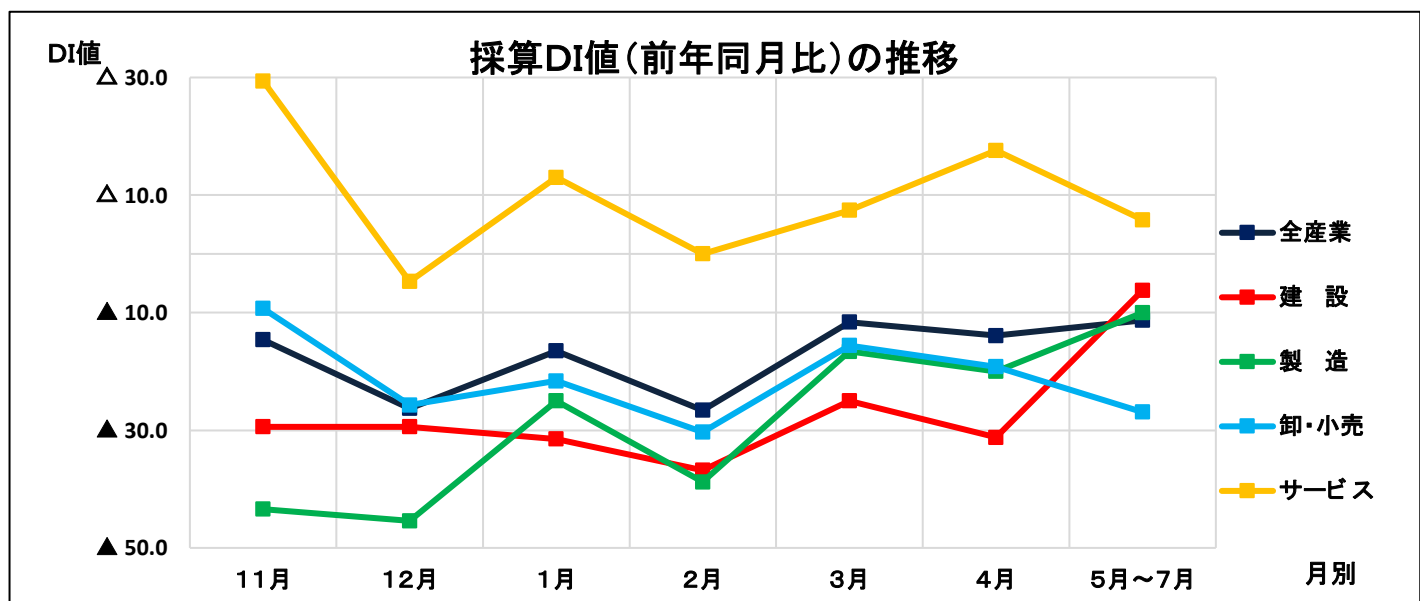
【採算について】

- 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲13.9(前月水準▲11.6)となり、マイナス幅が2.3ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲11.3(前月水準▲17.4)であり、マイナス幅が6.1ポイント縮小する見通しである。



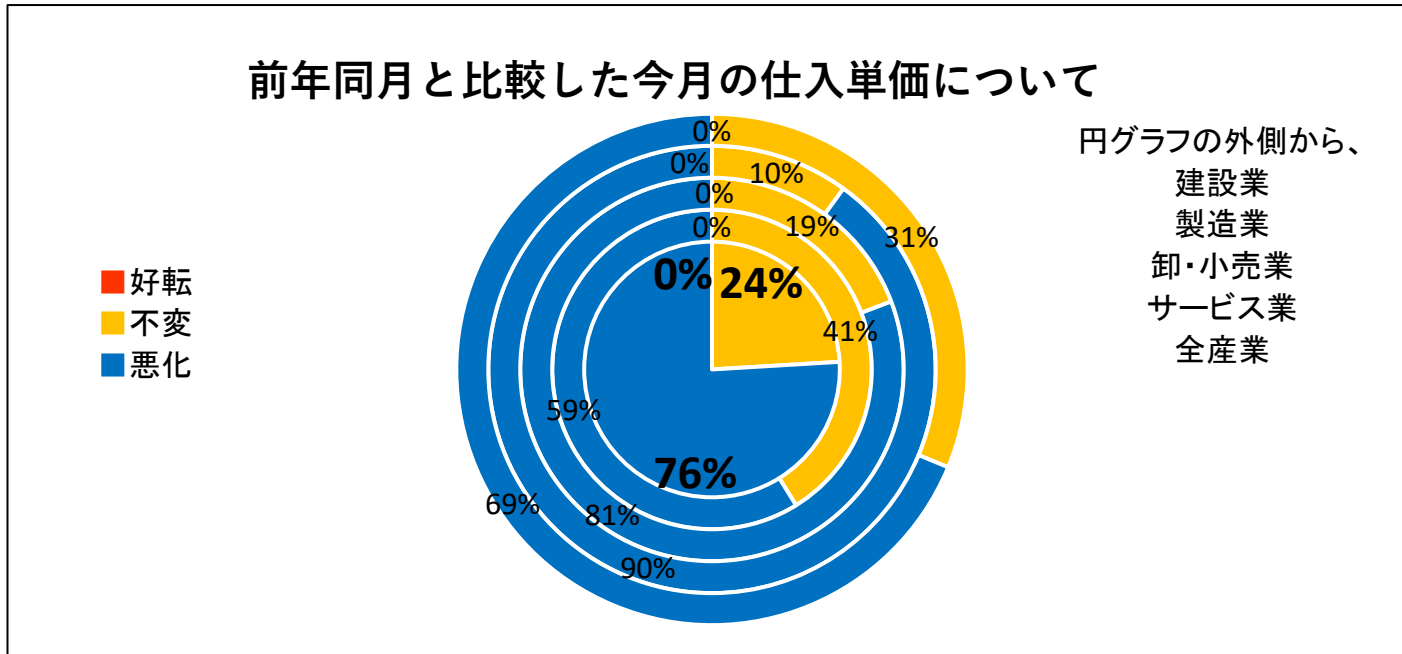
採算DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和4年		令和5年				先行き見通し
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月~7月(4月~6月)
全産業	▲14.6	▲26.3	▲16.5	▲26.6	▲11.6	▲13.9	▲11.3(▲17.4)
建設	▲29.4	▲29.4	▲31.5	▲36.8	▲25.0	▲31.2	▲6.2(▲25.0)
製造	▲43.4	▲45.4	▲25.0	▲38.8	▲16.6	▲20.0	▲10.0(▲20.8)
卸・小売	▲9.3	▲25.7	▲21.6	▲30.3	▲15.6	▲19.2	▲26.9(▲43.7)
サービス	△29.4	▲4.7	△13.0	±0.0	△7.4	△17.6	△5.8(△22.2)



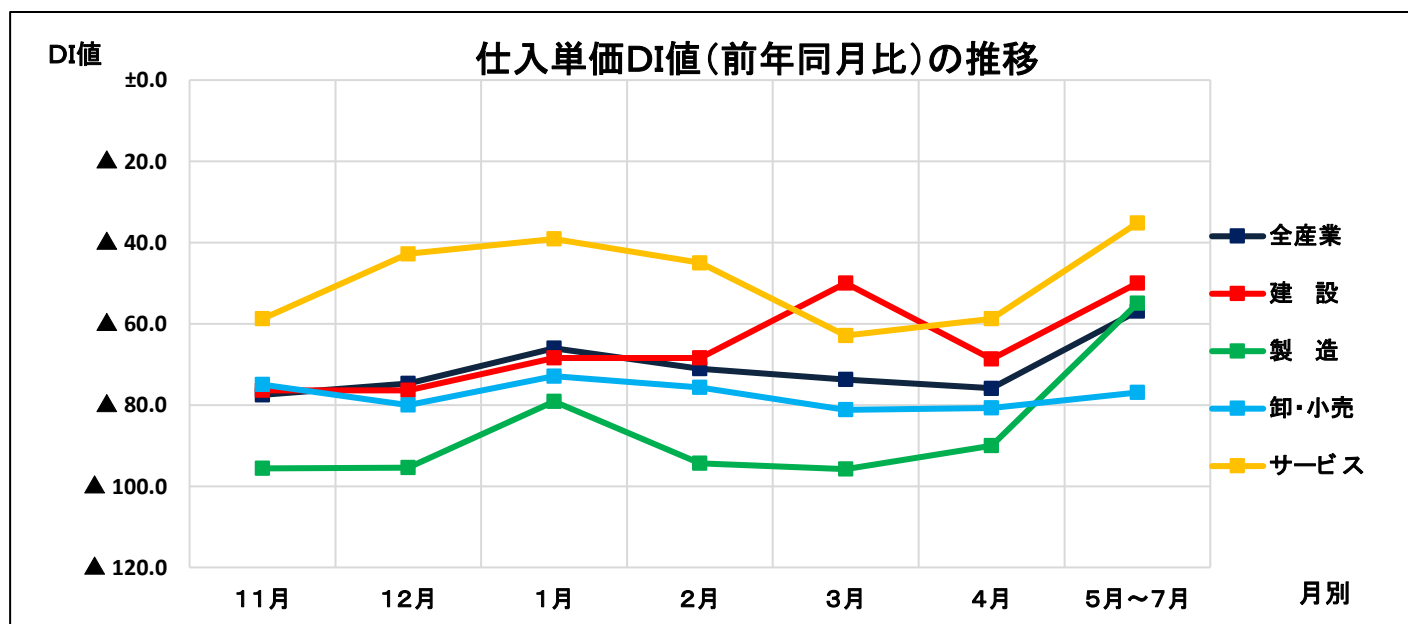
【仕入単価について】

- 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲75.9 (前月水準▲73.7)となり、マイナス幅が2.2ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲56.9 (前月水準▲62.1)となり、マイナス幅が5.2ポイント縮小する見通しである。



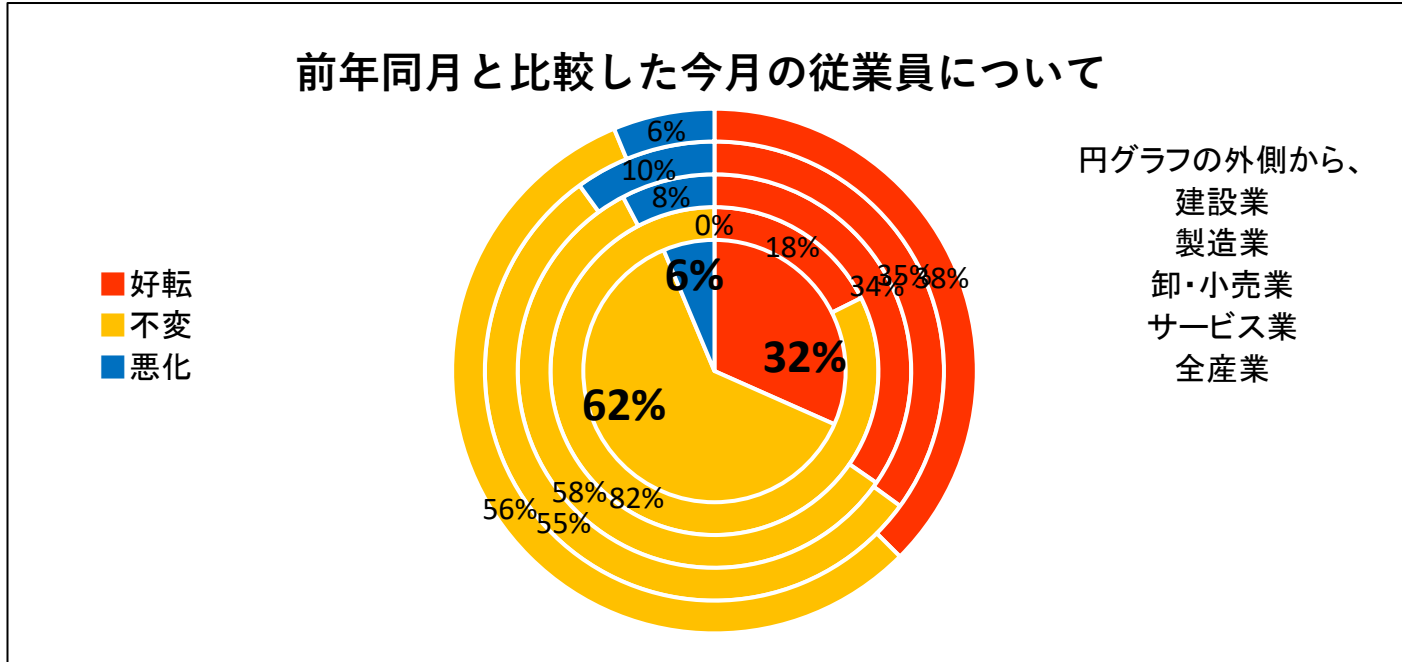
仕入単価DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「下落」の回答割合-「上昇」の回答割合

	令和4年		令和5年				先行き見通し
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月~7月(4月~6月)
全産業	▲77.5	▲74.7	▲66.0	▲71.1	▲73.7	▲75.9	▲56.9 (▲62.1)
建設	▲76.4	▲76.4	▲68.4	▲68.4	▲50.0	▲68.7	▲50.0 (▲45.0)
製造	▲95.6	▲95.4	▲79.1	▲94.4	▲95.8	▲90.0	▲55.0 (▲75.0)
卸・小売	▲75.0	▲80.0	▲72.9	▲75.7	▲81.2	▲80.7	▲76.9 (▲71.8)
サービス	▲58.8	▲42.8	▲39.1	▲45.0	▲62.9	▲58.8	▲35.2 (▲51.8)



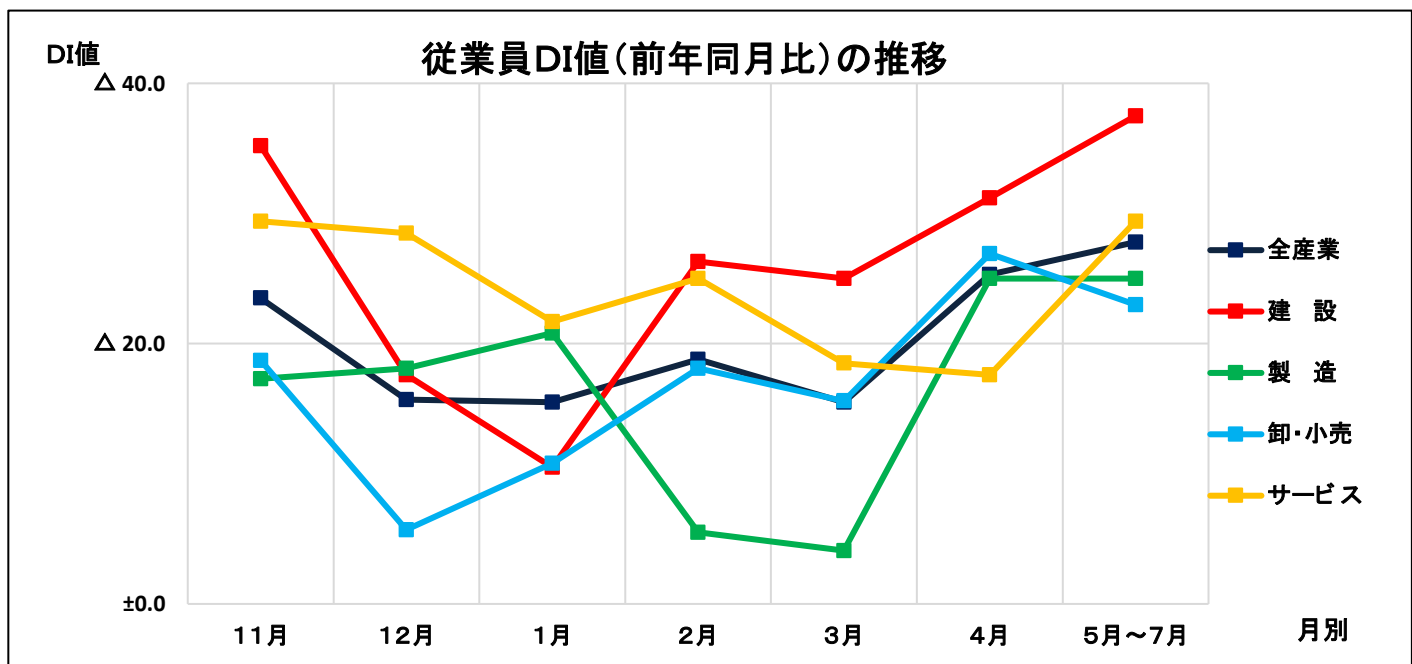
【従業員について】

- 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△25.3(前月水準△15.5)となり、プラス幅が9.8ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、△27.8(前月水準△16.5)となり、プラス幅が11.3ポイント拡大する見通しである。



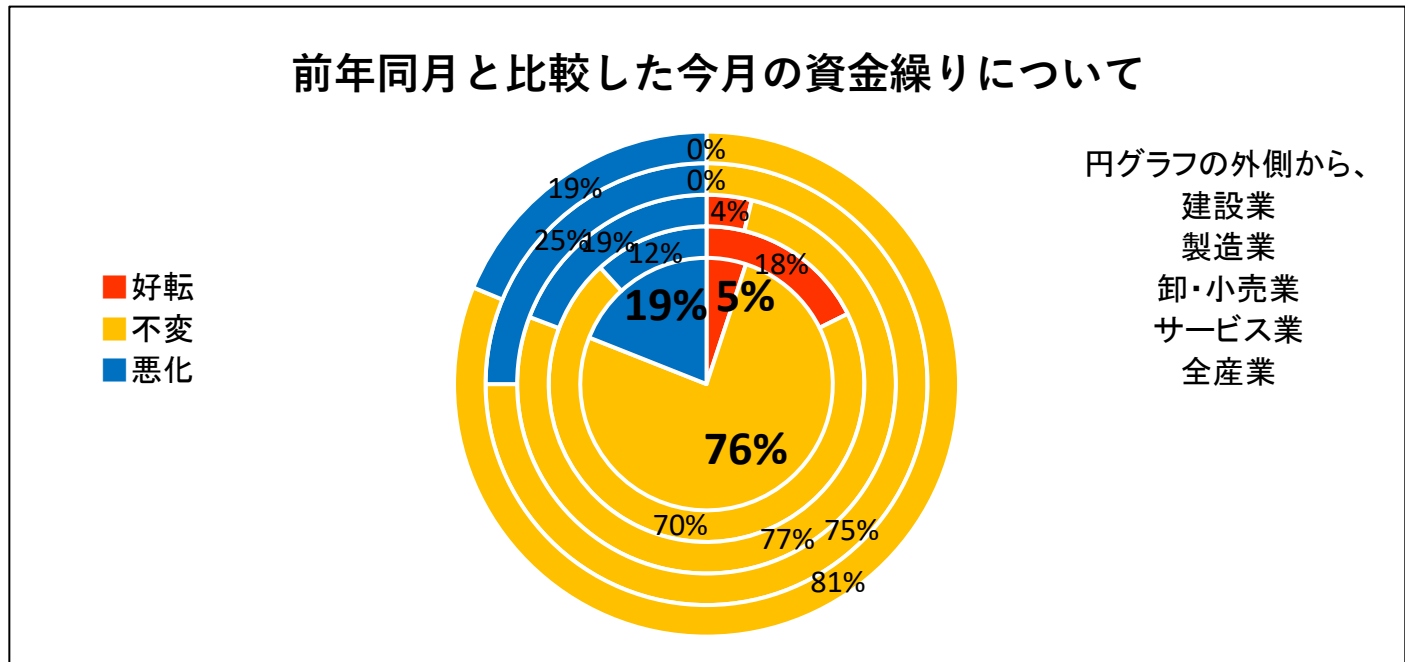
従業員DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「過剰」の回答割合-「不足」の回答割合

	令和4年	令和5年	先行き見通し				
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月~7月(4月~6月)
全産業	△23.5	△15.7	△15.5	△18.8	△15.5	△25.3	△27.8(△16.5)
建設	△35.2	△17.6	△10.5	△26.3	△25.0	△31.2	△37.5(△15.0)
製造	△17.3	△18.1	△20.8	△5.5	△4.1	△25.0	△25.0(△12.5)
卸・小売	△18.7	△5.7	△10.8	△18.1	△15.6	△26.9	△23.0(△15.6)
サービス	△29.4	△28.5	△21.7	△25.0	△18.5	△17.6	△29.4(△22.2)



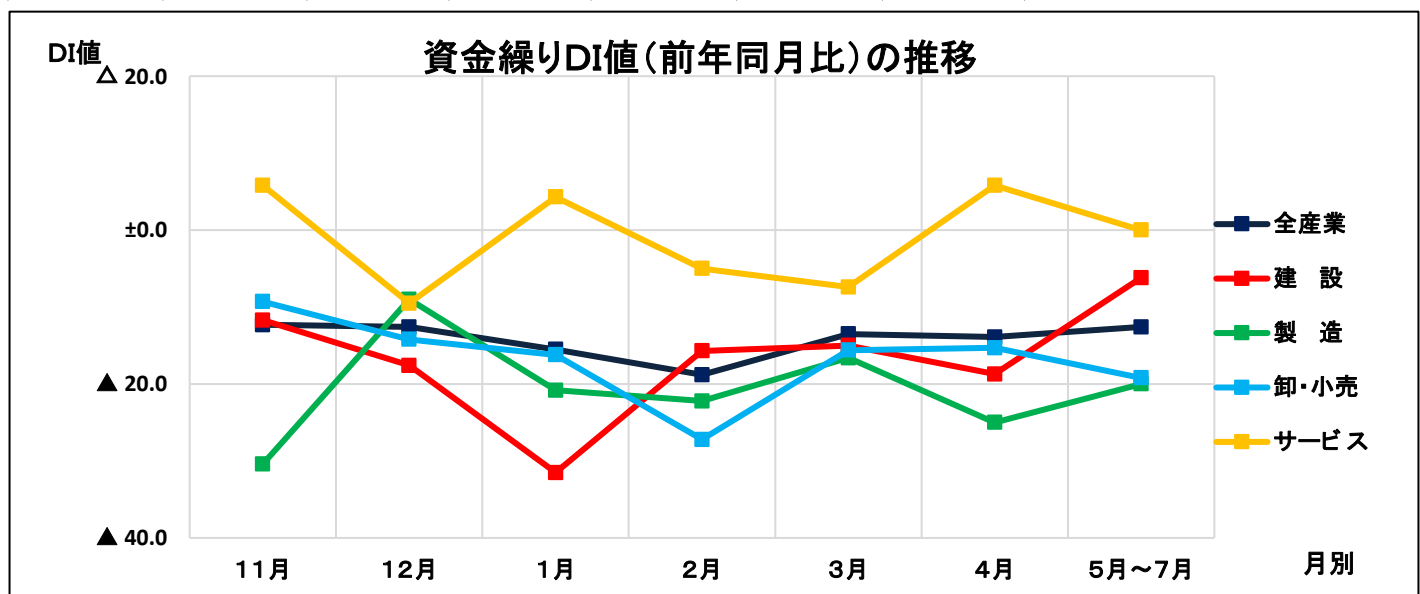
【資金繰りについて】

- 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲13.9(前月水準▲13.5)となり、マイナス幅が0.4ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲12.6(前月水準▲17.4)となり、マイナス幅が4.8ポイント縮小する見通しである。



資金繰りDI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和4年		令和5年				先行き見通し
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月~7月(4月~6月)
全産業	▲12.3	▲12.6	▲15.5	▲18.8	▲13.5	▲13.9	▲12.6(▲17.4)
建設	▲11.7	▲17.6	▲31.5	▲15.7	▲15.0	▲18.7	▲6.2(▲25.0)
製造	▲30.4	▲9.0	▲20.8	▲22.2	▲16.6	▲25.0	▲20.0(▲25.0)
卸・小売	▲9.3	▲14.2	▲16.2	▲27.2	▲15.6	▲15.3	▲19.2(▲25.0)
サービス	△5.8	▲9.5	△4.3	▲5.0	▲7.4	△5.8	±0.0(△3.7)

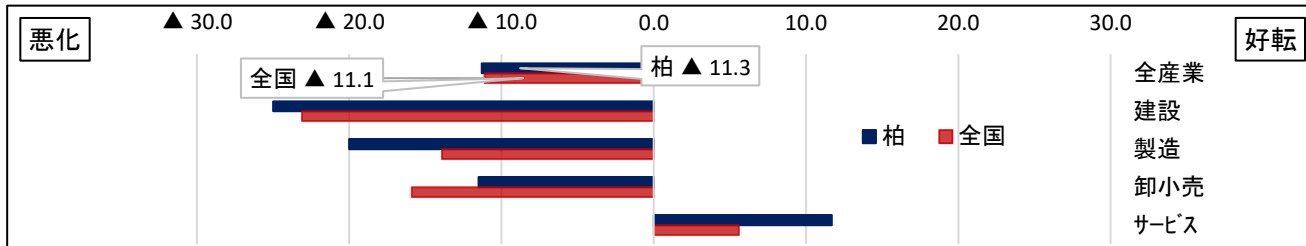


全国（CCI-LOBO）との比較

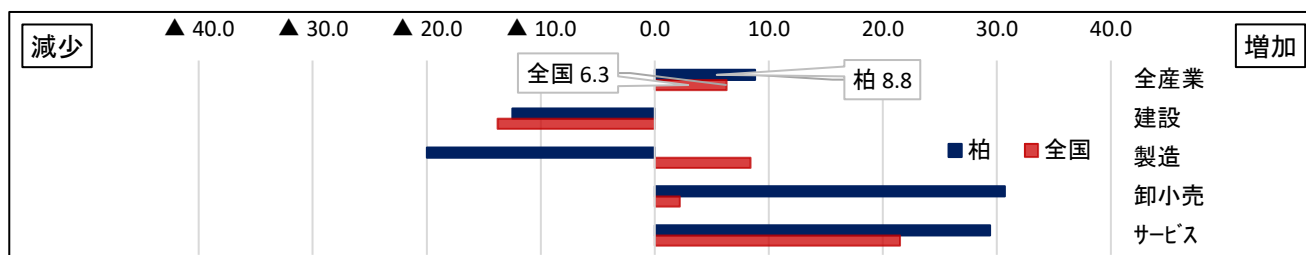
【CCI-LOBOとは】

日本商工会議所が各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の景況感」や「直面する経営課題」を全国ベースで毎月調査し、その結果を集計・公表するものです

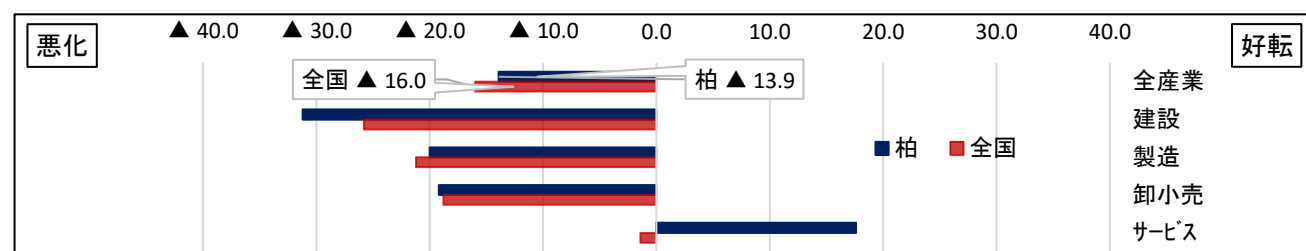
【業況D I】



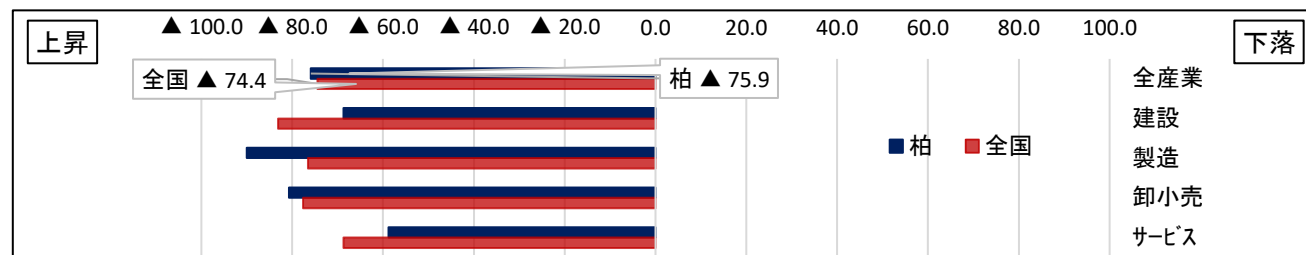
【売上D I】



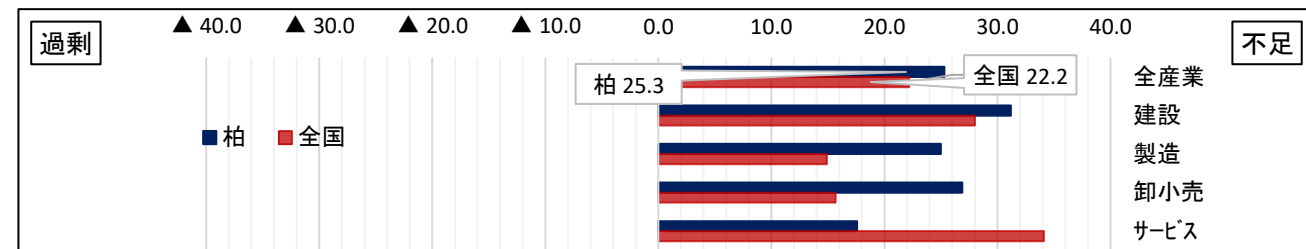
【採算D I】



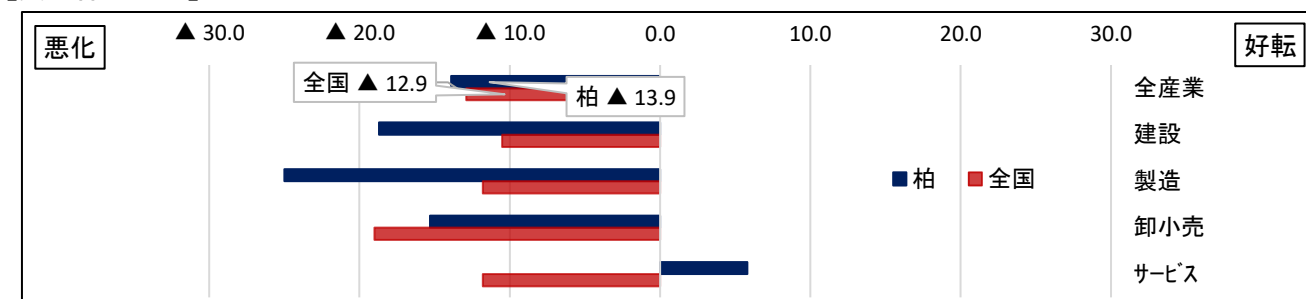
【仕入単価D I】



【従業員D I】



【資金繰りD I】



【業種別】 業界内トピックス

業種別	概 況	業種
建設業	生コンプラントがいっぱいで押さえられない。その為、工期の遅れが生じている。職人不足が続いている。	一般土木建築工事業
	だんだん畳工事の受注が増えつつある。	畳工事請負・畳製造販売業
	脱コロナの流れによって動き始めている状況ですが、一気に流れが来ているように感じます。現場の引き合いは多数あるのですが、現場管理者が足りないために秋まで待ってもらうように話をしている状況です。材料費の高騰は今後も続く事が予想されるため、早めに工事をしようとしているように感じます。	塗装工事業
	窓断熱リフォーム補助金への問い合わせが好調だが、納期が3~4か月待ちと日に日に延びている	一般土木建築工事業
	アパート・マンション工事等の原材料高騰により、受注が減るのではないかと	土木建築サービス業
製造業	依然として様々な負の外的要因を受け、業績は悪化の一途をたどっております	電子応用装置製造業
	新型コロナウイルスの影響で低迷していた医療品容器の受注に回復傾向は見られるが、化粧品容器に関しては相変わらず下げ止まったまま上昇気配が見られな	プラスチック加工
	どこも苦勞している状況の中で、得意先で廃業や事業縮小する会社が出てきた。根本的な要因は、少子高齢化による国内需要の低迷、後継者・人手不足が根深く感じる。	化学工業
	円安で推移しているために海外からの購入品が非常に高額となっている。	機械・同部品製造業
	新型コロナウイルスも終息に向かい、世の中が通常に戻りつつあることにより酒類の売上も好転してきているが、原材料やユーティリティ費用、人件費の上昇等による製品の値上げが予定されており、そのための仮需要等が見込ま	酒類製造業
	GW明けの新型コロナウイルス対応を2類から5類への移行に伴い、社内の新型コロナウイルス対応は原則廃止。なお、アルコール消毒は継続設置	鉄鋼業
	年度末と言うことで、売り上げは伸びたが、今後落ち着きそう。多少の売り上げの伸びでは、材料費、電気料金の高騰分をカバー出来ない。自社製品の値上げを辛抱強く行う必要がある。	自動車付属品製造業
上記の観点について製造は追い風にはならずほとんどの項目で厳しい状況となる事は明白でありこのまま若い世代が賃金の安い製造を選ばずに経過すると30年後にはより輸入大国になりメイドインジャパンのブランド力は地に落ちていくことでしょう。3Kと言われる製造をいかに国が税という搾取を軽減し経営者側に立てるかによりこの先の未来の日本は変わっていくことでしょう。志が高く有能な経営者が中小企・町工場には多く居るがこの先ほとんどの経営者は廃という選択肢を選んで行かざるをえない状況に陥るかと思います。	金属製品製造業	
	コロナ5類移行に向けて、移動マーケットは伸長している。インバウンドの免税対応も徐々に動き始めている。電気代などの高騰が重く経費を圧迫している状況	大型小売店
	度重なる原材料の値上げにより商品価格を改正(値上げ)しました。	洋菓子店
	新生活関連の衣料品が2ケタ伸長。外出需要も更に高まる。一方で更なる値上げの進行も影響し、食関連は鈍化傾向。	百貨店
	求人のため一律賃上げ。人件費の高騰も価格転嫁検討中。	各種商品小売業

【業種別】業界内トピックス

卸・小売業	界的にトヨタのディーゼル車出荷停止が大きく響きそうな感じですが、+面もあれば一面もあります、-面の方が大きく出そうです。海外は金利上昇に伴って、景気良い国が消滅している、そこが痛いです。他界にもそのうち波及するんじゃないですかね。うちは輸出なので直結してはいますが、あと日本も金利を急上げると同じ事になるかと思えます。	産業機械器具卸売業
	仕入価格高騰のため、仕入先が弊社を飛ばして直接販売先と取引を始めるようになり、価格高騰を抑える事案が発生している。中抜きされた自社は、訴えることもできず経営不振に陥っている。この中抜き対策に打開策が見つからない	食料・飲料卸売業
	30年以上の長きにわたって日本経済を苦しめてきたデフレーション経済が、昨年のロシアによるウクライナ侵攻を機に終焉し、とうとう本邦もインフレーション経済へ完全に突入した模様である。今後の企運営の舵取りで、この歴史的転換に気が付く、付かないかで、大きく相違すると思われる。気が付かない企は座礁するであろうし、また沈みかかった船から逃げ出すネズミのように、従業員が逃げていくであろう。賃金の低いところから、高いところへの移動は昨年からは始まっており、それは今後も続くと思われる。	自動車卸売業
サービス業	テナントがコロナ禍等で空いた好条件の場所に移ったりしている。コロナ明けの不動産業界もオンライン重説含め活性化していくと思う。	不動産賃貸業
	収益物件の大規模修繕の為、ローンを利用して見たが、金利は従前より上がった。	不動産賃貸・管理業
	年明けからの新入会の動きは例年になく悪かったが、新学年度になってようやく新規入会者が増えてきて、授業料収入もコロナ前の水準にまで回復した。今後はコロナ期間中の売上の落ち込みを埋め合わせるために、いろいろとキャンペーンを考えてゆきたい。	学習塾
	前年より売上増加も、コロナ前と比較し平日夜の客数が戻らず課題	日本料理
	再生可能エネルギー開発、特に地熱開発務が増えてきており、脱炭素に関わる調査も実施予定。SDGSに関わる務が増えつつある。	土木建築サービス業
	物価上昇、エネルギー価格の高騰により利益の減少が見込まれる。また、増税や社会保険料の引き上げが個人消費には悪影響となるため、梅雨以降の況の悪化が心配。	ゴルフ練習場
排ガス処理設備の集塵機関係は設備更新時期もあり景況感はやや横ばいかやや右肩上がり、顧問としては安定している。	技術サービス業	

調査要領

回答期間

令和5年4月25日 ~ 令和5年5月8日

調査対象

柏市内141事業所及び組合にヒアリング

<業種別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	141	83	58.9%
建設	32	17	53.1%
製造	35	21	60.0%
卸・小売	42	28	66.7%
サービス	32	17	53.1%

調査方法と調査票

下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 う3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高（出荷高）	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 （経常利益ベース）	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック（記述式）

※DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

※DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振
				